

西部地域の生態系管理・ヤクシカ個体群の保護管理に関する意見交換会

日時：平成 29 年 6 月 30 日（金）9:30～17:00

場所：屋久島環境文化村センター レクチャー室

趣旨 西部地域は、海岸部から山頂部まで自然植生が垂直的に連続して分布し、世界自然遺産の OUV（顕著な普遍的価値）を象徴する場所となっている。

県道山側を主とする国有林と県道海側を主とする私有地（特定民有地買い上げ制度により私有地を買い上げ）で構成され、過去には人が居住し、炭焼きやパルプチップ生産のための伐採等が行われたこともあるが、現在はこれらの活動も行われていない。

国立公園特別保護地区や特別天然記念物、森林生態系保護地域等に指定・設定され、主に県道沿いで車両からヤクシカやヤクシマザルを観察するという利用形態で公園利用が行われており、屋久島観光の主要利用拠点となっている。過去には、県道拡幅（1.5 車線化）が計画されたこともあったが、野外博物館構想の提案や反対運動等のため利便性向上ではなく、なるべく自然を損なわない方向で残されることとなり現在に至っている。

また、古くから大学などによりヤクシマザル等の研究が行われており、人為的な影響が少ない動物たちの自然の生態を研究する格好のフィールドとなっている。

西部地域は、ヤクシカの生息密度が高く、森林の更新や土壌流亡による生態系影響が懸念されており、森林生態系やヤクシカ個体群についてどのような考え方に基いてどのように管理していくべきかを検討し、管理を行っていくことが先延ばしできない課題となっている。このため、関係者による意見交換を行い、今後の森林生態系の管理やヤクシカ個体群の保護管理の推進に資することを目的とする。

プログラム	09:30－09:50	開会、趣旨説明等
	09:50－10:30	西部地域についての既存情報の紹介 ①西部地域の歴史と土地利用 ②ヤクシカと森（生息状況とその影響など）
	10:30－15:00	現地踏査（半山） ①植生保護柵（道下） ②半山 4 号橋 1996 年土石流災害跡地 ③平瀬国有林 2 林班標高 220m 地点（道上）
	15:00－17:00	総合討論「西部地域の生態系管理、ヤクシカ個体群管理」 ①森林の状態とヤクシカによる影響に関する評価 ②今後の森林、ヤクシカ生息状況の変化に関する予測 ③生態系管理、ヤクシカ個体群の保護管理方針のシナリオと評価
	17:00	閉会

出席者 ※五十音順。敬称略。

相場 慎一郎 鹿児島大学大学院理工学研究科 准教授
揚妻 直樹 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター和歌山研究林 林長・准教授
荒田 洋一 樹木医
岡 誠 屋久島町鳥獣保護管理員
小泉 透 森林総合研究所多摩森林科学園 研究専門官
幸田 良介 大阪府立環境農林水産総合研究所 研究員
杉浦 秀樹 京都大学野生動物研究センター 准教授
鈴木 正嗣 岐阜大学応用生物科学部 教授
手塚 賢至 ヤクタネゴヨウ調査隊 代表
濱崎 伸一郎 株式会社野生動物保護管理事務所 代表取締役
矢原 徹一 九州大学大学院理学研究院生態科学研究室 教授
山下 大明 屋久島学ソサエティ 会員
湯本 貴和 京都大学霊長類研究所長

林野庁九州森林管理局
鹿児島県
屋久島町
環境省九州地方環境事務所